

令和6年度第2回旭市総合教育会議 会議録

1 期 日 令和6年11月14日(木) 開会 午後1時30分
閉会 午後3時00分

2 場 所 旭市役所本庁舎3階 政策決定室

3 出席者 米本弥一郎(市長)
向後 依明(教育長)
鈴木 典男(教育長職務代理者)
富山 理(委員)
平野 勝久(委員)
田村 俊雄(委員)

4 開 会

5 市長あいさつ

- ・本日はご多用の中、第2回旭市総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。教育委員の皆様におかれましては、日頃より本市の教育行政にご尽力を賜り、この場をお借りし、重ねて御礼申し上げます。
- ・さて、本市の最上位計画である旭市総合戦略につきましては、令和7年度からの5年間の計画期間とする第3期の計画策定を進めており、総合戦略推進委員会等で、ご議論をいただいているところでございます。現在、計画の基本的な考え方である骨子がまとまったところで、今後は12月頃までに、基本施策等を加えた素案をまとめる予定でおります。
- ・本日の議題であります第3期旭市の教育に関する大綱は、第3期旭市総合戦略に掲げる将来都市像や基本目標等を実現するための、本市の教育行政に関する基本理念や施策の方向性を示す重要な指針でございます。総合戦略と教育大綱、市長部局と教育委員会が、方向性を1つに互いに連携し、市民一人一人が健康と幸せを実感できるまちの実現に取り組んで参りたいと考えております。
- ・本日は、大綱の素案についてご説明させていただく予定でございます。委員の皆様には忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

6 議題

(1)第3期旭市の教育に関する大綱(素案)について

【市長】

- ・それでは、ここから私の方で進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。
- ・前回、7月19日の第1回会議で、現在の大綱が今年度末までとなっていることや施策の検証などをご説明させていただきました。

- ・そして、構成については現行の大綱を踏襲し、内容については全体的に変えて策定すること、目標については5つ程度とすることでご了承いただきました。
- ・基本理念は、「郷土を愛し、夢に向かって歩み続ける未来を拓く人づくり」副題として、「夢を育て、夢を叶える魅力あふれる旭の教育は、市民のウェルビーイング向上に寄与します。」を掲げていきたいと考えております。
- ・本日の議題は、「第3期旭市の教育に関する大綱(素案)について」でございます。前回の会議やその後いただきました意見等を踏まえ、素案を作成いたしましたので、提案させていただきます。
- ・それでは、事務局より説明をお願いします。

【教育総務課長】

- ・資料の説明をする。
- ・協議項目について説明する。

①前文について

【市長】

- ・協議項目1つ目の「前文」について、意見交換をしたいと思います。
- ・前文は、この大綱の着眼点や概要を説明しています。ここに事務局案を載せていますが、内容や文章量など、ご意見・ご提案をお聞かせいただければと思います。

【委員】

- ・前回の大綱は学校の内容が多かったようだが、今回はいちばん最初に「市民の」とあり、基本目標の中にも市民に関係するものが多く含まれていますので、今期大綱は、まさに市の大綱になると思います。
- ・「ウェルビーイング」という言葉は、最近見かけるようになってきました。今日の新聞にも出ていましたが、これからいろいろな分野で使われ、浸透していくと思います。これは全体的に求められている感じを持ちます。
- ・2012年の中央教育審議会の提唱でアクティブラーニングという言葉が使われていました。今回の基本目標(3)の②に「主体的・対話的で深い学び」という表現がありますが、「アクティブラーニング」がこの言葉に変わったようです。このようにカタカナ英語で表記していたものが日本語表記に変わり、理解を促していくこともあると思います。
そういった例からも、この「ウェルビーイング」の浸透を注視し、今後も検討の継続が必要だと思います。「市民のウェルビーイングの向上に寄与する」とあります。これは、旭市への移住・定住にもつながる大きなことです。
- ・その下に記載のある「環境整備」は、合わせて生活環境や自然環境についても力を入れていく必要があると思います。
- ・「人生100年時代」は浸透している言葉ですが、「人生120年時代」について、研究が進められている報道を目にしました。今後変わって行くかも知れませんが、今の段階ではこれでいいかと考えます。
- ・DXについては、対応が加速化していますし、大きな課題だと考えます。ぜひ取り入れるべきだと思います。それからもう1つ、AI(エーアイ)によるプラス・マイナスの影響も、これから増大してくると思います。

- ・10月に東京工業大学と東京歯科大学が統合しました。記者会見で理事長は、次のように述べられました。「科学技術の進歩は極めて速く、進歩に対して人や社会が歩調を合わせるのが困難になっている。これからの変化に対応してより良き未来を拓いていくために我々は統合した。2つの大学の文化の違いはあるが、その違いを前向きに捉える。」これもウェルビーイングにつながるものだと思います。
- ・沖縄交流事業で沖縄の子どもたちが本市を訪れた際、代表あいさつで「違いを知ることが大切・大事」ということを、また引率職員が「こんなに日没が早いのですか。」と言っていました。このような小さな違いが、大きな違いにつながって行くと思います。違いを知ること、違いの良さを知り、違いを前向きに捉えること、これがグローバル化へとつながる子どもたちの好奇心を引き出すのではないかと感じました。
- ・そのようなことから、前文についてはこれでいいと思います。

【委員】

- ・「基本理念」について、第2期大綱の基本理念の方がすっきりしているように感じます。今回は少し長すぎる印象を受けます。「夢に向かって歩み続ける」が長いので、もう少しキャッチーな感じにならないかと思っています。
- ・また、「夢に向かって歩み続ける」がサブタイトルのように感じるので、そこを別の言葉と入れ替え、基本理念はこれだというポイントで表現できるといいと考えます。

【教育総務課長】

- ・基本理念の「夢に向かって歩み続ける」については、再度検討させていただきたいと思っています。

【委員】

- ・基本理念については、私も少し長いと思います。副題についても、この基本理念だけを見ると、「旭の教育は」という部分について、入れるべきかどうかを疑問に思いますし、もうひとひねり欲しいと感じます。

【委員】

- ・行政関係のいろいろ外部に発信するときの文言は、わかりやすさ・伝わりやすさを重視すべきと考えます。「『郷土』『夢』『未来』構想(プロジェクト)」といった形で、学校職員・市民・他市の方々などが見てキャッチーな感じであれば、旭の教育は、「郷土」「夢」「未来」なんだと、すぐにわかります。ストレートにわかりやすいものがないのではないかと思っています。これは後々の課題になるかと思いますが、基本理念に戻ると、「郷土を愛し」が1つ、「夢に向かって歩み続ける」が1つ、「未来を拓く人づくり」が1つで、3つ構想というのはちょうどいい。2つだと少ない、4つだと多い。それで、「郷土」「夢」「未来」だと非常に覚えやすいが、「郷土を愛し」「夢に向かって歩み続ける」「未来を拓く人づくり」だと、どれも少し長い感じがします。これからは、やはり基本理念は、言いやすい、覚えやすい、ワン・ツー・スリーとなるようなものの方がいいのではないかと思います。
- ・「ウェルビーイング」や「デジタルトランスフォーメーション」また、「超スマート社会」という文言を、一般市民に理解を求めていくための努力が必要だと思います。注釈を付ければわかるのかもしれませんが、わかりやすい方がいいというのが私の理念です。

【教育長】

- ・先般の某会議で、同様に「超スマート社会」「ソサエティ 5.0(超スマート社会)」などの言葉を用いるため用語解説を示しましたところ、解説を見ても理解困難、市民に向けたものであるならハードルが高いのではないかという意見をいただきました。

しかしながら、この大綱(素案)については、市の総合戦略との整合性を考慮していること、そして国の教育振興基本計画から落とし込んでいることから、これらの言葉はぜひ使っていきたいと思っています。

- ・基本理念の説明文の中にソサエティ 5.0(超スマート社会)」「DX(デジタルトランスフォーメーション)」という言葉が出てきます。その用語解説を、もう少し噛み砕いた表現にする必要があると思います。例えば、

➤ ソサエティ 5.0(超スマート社会):IoT(アイオーティー)やAI等の先端技術をあらゆる分野に取り入れることで、すべての人の便利で豊かな暮らしを実現する未来社会の姿。また、社会が抱えている様々な課題を解決しようとするものでもある。

と、このように少し噛み砕いた解説をしてはどうかと考えました。

➤ IoT:もののインターネット。様々なものがインターネットを経由して通信を行っていく中で、人ともがつながって、より効果・効率的な快適な社会を目指すということ。

この辺の解説もしていかないと、多分このままではご理解いただけないと思っています。

➤ AI等:AIとは人工知能。「等」の中にはロボットというものが最近よく例えで使われる。ロボットというのは知的な機械の総称で、具体的には、ドローンやスマート家電や自動運転、遠隔医療。あらゆるものとコンピューターがつながって、日常生活におけるロボットとの関わりが増えていくであろう。

と、この辺の解説もしていかないと、多分このままではご理解いただけないと思っています。

それから「ソサエティ 5.0(超スマート社会)」と「DX(デジタルトランスフォーメーション)」の関係をはっきりさせる必要があるのかなと思います。

➤ ソサエティ 5.0(超スマート社会):経済発展と社会的問題の解決の両立を目的とする。

➤ DX(デジタルトランスフォーメーション):レガシーシステム。いわゆる過去の技術や仕組みで構築されている仕組みやシステムの刷新による業務の効率化を目指す。ソサエティ 5.0 を実現するための取組みの内の1つ。

この辺も多少この中でしっかりと捉えていくとわかりやすくなる。

そして、ウェルビーイングは様々な言い方がありますが、

➤ ウェルビーイング:一人一人が多様な幸せを実現できる社会。

簡単にこのように表現するとわかりやすいと思います。

いろんな言い回しがありますが、多くの方に理解いただけるような簡単なものをここに盛り込んでいくのが大事かと昨日の会議で思ったので、意見を述べさせていただきました。

- ・基本理念ですが、大綱の中身に、学校教育の部分として「生きる力を育み子どもたちの持つ可能性を最大限に引き出すこと」、生涯学習の部分として「いつでも・どこでも・誰でも学ぶことのできる学習支援をするということ」、社会教育の部分として「学びを通じて人づくり・つながりづくり・地域づくりといった社会教育の体制づくりにつなげていくこと」、この3つが含まれています。それらを踏まえて、このように掲げているということです。

これについて、ちょっと長い、もうちょっとシンプルに3つのキーワードを使ってというようなご意見がありました。

- ・基本理念の下に書いてある文は、この基本理念を設定したことに対する理由が相応しいと思いを考えてみました。

➤ 第3期旭市教育に関する大綱では、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となり得る人を育むため、基本理念に夢・郷土・未来の3つのキーワードを用い、市民の皆さんに親しんでいけるよう努めながら今後5年間の教育行政の柱として各種施策を推進してまいります。

このようにちょっと整理することで、3つのキーワードを、市民の方々にも愛着を持って親しんでいただけるのではないかと、こう盛り込んでみました。そして、その後、この夢に関するもの、郷土に関するもの、未来に関するものの説明も必要と考え、

➤ これからの複雑で予測困難な時代においては、子どもたちを始め市民一人一人が自己実現を果たすためには、それぞれの持つ能力や可能性を最大限に引き出すことが大切です。

これは人格の形成で、教育基本法の目標にあるものを引用しました。

➤ そのためには夢を持つことが重要であり、夢は人が成長する大きな原動力となり、時には不可能なことを可能にします。また、郷土に愛着と誇りを持つことは、未来を拓く意欲につながり、社会の創り手となり得る大人へと成長します。

このようにして、基本理念と絡めて説明をしてはどうかということで、文を考えてみました。その最後で、

➤ 本大綱は、郷土を愛し夢に向かって歩み続ける未来を拓く人づくりを基本理念に掲げ、以下の5つの基本目標を定め、市民のウェルビーイング向上へとつながるよう、その実現を目指してまいります。

こんな形で基本理念の説明をするようにした方が、方向性としていいのではないかと考えながら検討してみました。私からは以上です。

【教育総務課長】

- ・用語解説について、もう少しわかりやすい表現に改めたいと思います。
- ・基本理念の下の前文につきましても、この基本理念の「郷土・夢・未来を拓く」というところを説明している文として見直す点がございいますので、教育長と相談させていただき、また皆さんのご意見も含めて修正していきたいと考えております。

【市長】

- ・皆さんからのご意見により、素晴らしい大綱ができることを期待しているところです。総合戦略と教育大綱がリンクするような形でウェルビーイングやデジタルトランスフォーメーションといった言葉を取り入れています。その総合戦略に紐づく計画に行政改革推進課で策定を進めている「行政改革アクションプラン」というものがあります。そこで言われているのは、デジタルトランスフォーメーションというのは、デジタル化することではなく、デジタルを活用し、改善・改革・最適化することで、そういう理念が大事だということでもあります。
- ・もう1つは、市役所や学校現場だけがデジタルトランスフォーメーションを進めるのでは

なく、市内全域でそれを進めていき、市民一人一人、また様々な事業者の皆さんがデジタルとDXで利益を得られるような形にしていければいいと思っております。

- ・そして、先ほど委員からもございましたが、3つのキーワードに従って見やすさ・わかりやすさを考えたデザイン性も必要だと感じました。

②基本目標について

【市長】

- ・協議項目2つ目の「基本目標」について、意見交換をしたいと思います。
基本目標ですが、現行の大綱では重点目標としておりますが、今回の事務を進める中で、基本目標としていくことが適当ではないかということになりました。
- ・「基本目標」とすることについて、いかがでしょうか。
(異議なし)
- ・ご異議なしと認め、「基本目標」とし、進めてまいります。
- ・それでは基本目標について、忌憚のないご意見、ご提案をお願いします。

【委員】

- ・非常にわかりやすくキーワードが示されていて、見やすいと思います。
- ・ここに「夢を叶える」と夢があります。子どもたちの夢というものは子どもたちで探すだけでなく、大人が与えたり、場・地区・場面が与えたりと、その時によって夢がつかめることから、やはりキャリア教育が重要だと考えますので、それを文面の中に入れるといいと思います。
- ・もう1つ気になる点は、前文に「スポーツや文化芸術活動に親しみながら」とありますが、基本目標では、複数、「スポーツ」がある一方、「文化芸術」が少ない点です。旭市には非常に多くの文化財がありますので、そういったものも「ふるさと旭」としてあればもっと明快でいいと思います。
- ・用語解説を作るのであれば、もっとシンプルでわかりやすい子どもでも理解できるようなものにすべきだと思いますし、言葉を替えればこの文面はいらない、これだけでいいということが見えてくると思います。

【委員】

- ・まず1つに、基本目標(1)②と(3)③の両方に「グローバル」とありますが、文をもう一度紐解いてまとめて、どちらか1つにまとめた方がいいと思います。その他は、ほぼ素案どおりでいいと思います。
- ・それから、「千葉県の教育の振興に関する大綱」では、1ページ目に大綱があり、2ページ目に当時の森田知事が子ども向けに示したメッセージがあります。この旭市バージョンを作ってはどうかと思います。基本目標に沿って、5つ程度でもっとわかりやすい形で子ども向けに「旭の宝は君たちで、市として全力で君たちを支えます。」というメッセージを出すことで、市長の教育への熱意を伝えることができると考えます。これは、おそらく他の自治体ではやっていないと思います。子ども向けになってしまいますが、とにかくわかりやすい文章で、県のような文面が欲しいと思っています。
- ・千葉県内で教育が充実している市町村ランキングというものがありまして、1位が多古町、2位が千葉市中央区、3位が成田市で、我が旭市は28位です。この充実度をもっ

と上げたいと思っています。なぜ多古町がと考えたとき、多古町は、児童館がとても充実していると思います。その中で各講座が無料で常に行われているということがあります。実際旭市からも、無料の工作教室や絵画教室などの講座に通っている子どももいます。中には不登校の子どもで通っている子どももいます。あるいは、県外に行っている子どもも多数います。施設、学校跡地利用も含め、児童館などの取組みは生涯学習から見てとても有効ではないかと考えます。

- ・これは基本目標(4)、(5)に当たることですが、こういうメッセージにより、市の教育が一層厚みを増すと思います。

【教育総務課長】

- ・ご意見ありがとうございます。まず、グローバルが2つある点についてですが、こちらにつきましては、(1)の郷土愛の中の「社会の持続的な発展を生み出す」というところでグローバルが必要なことと、(3)の「生きる力を備える」というところで、子どもたちに外国語教育などを育むということでグローバルという言葉を入れております。
2つあることにつきましては、改めて内容を検討したいと思います。
- ・それと、子ども向けの文言を千葉県のようにというご意見ですが、こちらにつきましては、今回の基本理念の最後に「未来を拓く人づくり」ということで、子どもたちの成長に大きく関わるところです。旭の未来を担う子どもたちにわかりやすく説明することも必要かと思えます。ただ、千葉県の子ども向けのメッセージを作成した当時の前回の綱は学校教育が重点でしたが、今回は市民全体に向けたものであることもありますので、市民にわかりやすい表現で検討したいと思います。
- ・県の教育の充実度ランキングで旭市は 28 位で、多古町が1位だったということですが、そちらにつきましても、ランキングの内容など検証させていただきます。

【委員】

- ・(1)から(5)まで大題の基本目標があるわけですが、これがちょっと目立たなくなっているかと感じます。詳細項目の中身が 2 から 4 つあるので、これをもう少し少なくすることで(1)から(5)の基本目標部分が目立ってくるように思います。
- ・基本目標では、(1)継承とか受け継ぐ人に関して人を育てましょう、(2)貢献する人を育てましょう、(3)創り手を育てましょう、(4)生涯学習、(5)地域コミュニティと主な題材が出ていて、はっきり言っていることはいいと思いますが、詳細項目の中には別の基本目標の方に移動させた方が適当かなと思われるものがいくつかあると思います。
- ・(1)の1つ目の詳細項目に「ず〜っと大好きなまち旭」と「郷土愛」が文言の意味が重複する気がしますので、「郷土愛を育む教育」というのを「ふるさと教育」にしてしまってもいいと思います。
- ・それから基本目標(1)の「社会の持続的な発展を生み出す人を育てます」というのが抽象的な感じがします。社会の持続的な発展とは、経済的水準の維持発展のことですか、一人一人の生産性を上げますということ、多様な人材の社会への参画をお願いしますということ等、学校教育とか生涯学習とか区分なく、社会の働き盛りの人に向けたメッセージに見えるので文言をもう少し変えた方がいいと思います。
- ・(3)「社会を創り出す人」と(1)の「社会の持続的な発展を生み出す人」が類似していてわかりにくいと感じます。どちらかというと(3)の「社会を創り出す人」は良く使われてい

るので、(1)を違う文言に変えた方がいいと思います。

- ・スポーツのことについては、(1)「スポーツ活動の機会を創出」、(2)「スポーツの環境を整え団体支援や指導者を育成」、(4)「スポーツ活動の創出」、(5)「スポーツ活動の環境を創出」と、ほぼすべての基本目標に入っていますが、もう少しまとめた方がいいと思います。
- ・(2)の詳細項目1つ目ですが、「個性を引き出す活動の充実」とありますが、個性とは元々その子が持っているものとは限らないと思いますので、「個性が尊重される学び」というような表現にしてもいいと感じます。
- ・(3)の2つ目、「解決すべき課題を自ら見だし」とは、問題を解決するために必要とされる学びではなく、解決できなくても、互いに深い学び、共同作業をして、互いの意見を尊重して探究するという、最終的に解決できなくてもいい学びですので、「確かな学力」に結び付けるのは少し難しいと考えます。
- ・同目標の3つ目に「デジタル人材の育成に努めます」とありますが、デジタル人材とはピンポイントでDXの推進を担う多様な人材のように見受けられるので、育成はキャリアとしても限定しすぎだと感じます。
- ・(4)の1つ目、「現代的・社会的課題に対応した学習の推進」とありますが、自分の興味のあることを学びたい、リカレント教育では自分が今就いていない仕事のことも知りたい、世の中のことも知りたい等、特に問題や課題が無くても、学んで欲しいというのが生涯学習というものだと思います。いつでもどこでも何でも学んでいい、興味のあることを勉強したらいいという雰囲気、「すべての世代に学びの機会を」というように表現した方がいいと感じます。それと、「人づくり、まちづくりにつながる環境づくり」と、づくりが3ヶ所出てくる点が多いかと、気になる点です。その下の文も「生きがいづくりを推進します」と、また出てきて、多すぎると感じます。
- ・(5)「社会教育の充実により」の言っていることは、社会教育の充実によって地域コミュニティの基盤の充実をつくり出すということですが、詳細項目の1つ目で言っているのは「学校を含めた地域が、環境を創出したら社会教育活動を充実させます」という内容で、目標と中身が少しずれて、全く逆のことを言っているように感じます。
- ・「学校を含めた地域が一体となって」は、学校の部活動のことだと説明がありましたが、意味がわかり辛いので、部活動の地域移行のことを指して言いたいのであれば、もう少し文言をうまく入れた方がいいと感じます。
- ・スポーツ・文化を地域に移行する際に、アスリートを育てようとか、アーティストを育てようとか、または楽しんでやろうとか、それにより路線が違ってくると思うので、皆が皆楽しむ・親しむという方向だけではないような気がして、文言が気になりました。
- ・次の項目で「地域と学校が相互にパートナーとなり」というところですが、「家庭」はどこへいってしまったのか、第2期大綱では「家庭」も入っていましたが、「家庭」が消えてしまったのは問題ないのでしょうか。
- ・(5)の「学校を核とした地域づくり」とありますが、学校というと「安心・安全」とか「地域防災」とあるべきだと思いますが、ここには1つも出てこなくなってしまう、少し心配です。
- ・それと、「連携・協働して様々な活動」とありますが、様々なでくくるのではなく、「生涯学習やスポーツ・趣味・ボランティア等」のように、説明がもう少し欲しいと感じました。そういった活動や世代間の交流などもあってもいいのかと思います。
- ・学校に関することやシニアに対することはあるが、青年や若者に対する基本目標はどれ

なのかと疑問に思います。もう少しその辺も、アピールできるといいと感じます。

- ・(4)の生涯学習のところで「〇〇づくり」が続くところでまちづくりを言うのであれば、思い切って「地方創生」を入れてしまうのもいいのではないかと感じました。

【教育総務課長】

- ・(1)から(5)の基本目標は、目立たせる必要はあると考えています。
- ・文言について、いろいろご意見いただきありがとうございます。今回頂いたご意見を踏まえまして、再検討していきたいと考えています。

【委員】

- ・用語解説について、わかりづらいという意見もありましたが、「これらの用語を理解・活用できる能力を育成する」といったことも求められることなのかも知れませんね。
- ・用語解説には、子ども向けのものなどいろいろあります。私のような年寄りにはカタカナが非常に難しくなっていますから、用語解説を柔らかかにしていただければいいと感じます。
- ・基本目標については、ウェルビーイングの向上に関連して市民全体を対象とした目標がいくつも入っていますので、これでいいと思います。
- ・ウェルビーイングの「イング」は継続と捉えて、いろんなことが次々と変化していきますから、考え続けることが大事なのではないかと思いました。
- ・目標の(2)「夢に向かって努力し、自身の能力を最大限に向上させ」とありますが、自身の能力を向上させるというところが、すんなり読めない点が気になります。これは表現を変えた方がいいと感じました。「夢に向かって」とありますが、こういうのを子どもたちに示したならば、夢をAIで検索するのではないかという感じがしないでもないです。
- ・総合戦略の将来都市像に「みんなで創る未来 ず〜っと大好きなまち旭」とありますが、これも教育を、学校だけではなく市民みんなで創るというのが、各目標に含まれていると思います。学校で学んだことが地域でも生きる、役に立つという実感が、子どもたちには必要なのではないかと思います。
- ・それと、「いつかは帰ってきたい」と思えるまちづくりとありますが、市を離れている間でも、その地と旭市を関係づける、結ぶにはどうすればいいかという方向を示してもいいのではないかと思います。
- ・基本目標(3)の1つ目、「新しい時代に求められる」とありますが、後手の対応のような印象ですので、ここは「新しい時代を拓く、あるいは創る」といった表現の方がいいと思います。
- ・(1)の2つ目に「多様性の尊重」とあります。千葉県では多様性社会推進課の所管となりますが、多様性尊重条例というものが、今年1月にできました。これについては重点を置いていくべきだと思います。幅広い内容ですが、その中に簡単な表現で、「多様」を「違い」という言葉で置き換えているところがあります。子どもたちにも関連してくると思います。

【教育長】

- ・基本目標のところですが、5つの目標が決定して、初めて下の説明①から④に各事業をイメージしてそこに落とし込んでいくという作業になってきますので、あえてここでは触

れません。基本目標の決定に向けて考えをまとめて再検討していく必要があると考えますので、ここでは基本目標について、話をさせていただきます。

- ・以前から申し上げているとおり、教育は人づくり、人づくりはまちづくりへとつながると、このような方針で教育行政を進めております。前期大綱の中で、前市長のあいさつの中に、「教育こそがまちづくりの原点である」との認識のもと教育を進めると、もちろん米本市長も同じ考えを抱いてくださっています。
- ・そういった思いがあるので、この基本目標にあれもこれもと盛り込んで、かえってわかりづらくなってしまっています。(1)郷土愛を育む、(2)夢に向かって成長する人を育てる、(3)生きる力を備え未来を拓く人づくり、(4)生涯に行うあらゆる学びの支援、あらゆる学びとは、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア等、様々なものを指します。(5)社会教育の充実により学びを通じた人づくり、つながり、地域づくりにつながる基盤づくりの強化ということになります。
- ・1つ例を申し上げますと、「ふるさと旭に愛着と誇りをもち」というところは、郷土愛を育むというところですが、先ほど申し上げましたように、人づくりは最終的にまちづくりにつながるということを踏まえると、これが育つとどういったまちづくり・地域づくりにつながっていくのかということで、後段にこのような文言が来ているように思います。ふるさと旭に愛着と誇りをもち、このような気持ちが育つと、社会の持続的な発展を生み出す人に成長していきたくらうということです。この文言があるがために、わかりづらくなっているように思います。本来ならここは地域の自然・文化・伝統の魅力を実感し、ふるさと旭に愛着と誇りを持てる人を育てますと、シンプルに表現することもできるのですが、様々な要素を含ませているがために、基本目標(1)(2)(3)は、こういった難しい表現になっています。この辺を委員の皆さんにもご検討いただきたい。
- ・(2)ですと、「夢の実現に向けて自身の能力や可能性を最大限に向上させようと努力し続ける人を育てます」とすると、わかりやすくなってくるのかと思います。
- ・(3)ですと「生きる力を備え、自信をもって自らの人生を切り拓きよりよい社会を創り出す人を育てます」と、少しシンプルにした方がいいのかという考えも出てきました。この「自信をもって」ですが、なぜこの言葉を持ってきたかといいますと、現代の子どもたちというのは非常に自己肯定感・自己有用感・自尊意識が非常に低いということが言われ続けています。日本は特にそうです。そんな中で、良さや可能性をしっかりと認識することが、未来を拓く人づくりにつながるのであろうという思いを込めてこの「自信をもって」という言葉を落とし込んでいます。
- ・それから、先ほど委員からのご意見に、学校教育に特化した目標がいくつかあるのではないかとありますが、これはすべての市民に向けての目標です。
- ・特に学校色が強いと思えるのは(3)ですが、これはどの年齢の方にもつながっていくことです。教育基本法の中の「人格の完成」というのは、どの段階で完成するのではなく、一生完成を求めて努力し続けるという思いがあります。
- ・子どもから大人まですべての市民に関連するように基本目標を作りたいという思いから、このような表現で提案させていただいております。
- ・「生きる力」と言いますと「確かな学力・健やかな体・豊かな心」とありますが、そういったものも学生だけではなく、子どもから高齢者までが、そういったバランスの取れた生きる力が必要です。実際には、生涯学習課の事業もスポーツ振興課の事業もここに入りますので、その辺も踏まえて再度整理していきたいと思っております。

【市長】

- ・それでは私から、申し上げます。始めに、市長部局と教育委員会が方向性を1つに互いに連携し、市民一人一人が健康と幸せを実感できるまちの実現に取り組んでまいりたいと、ご挨拶申し上げました。そのための教育の大綱ですので、かなりレベルの高いものを作っていかなければいけないと考える中で、皆様には大変活発なご議論をいただきましてありがとうございます。
- ・旭市の子育てのランキングは、県内で決して高くないというお話もありましたが、内容を確認させていただきたいと思います。
- ・むのたけじさんという朝日新聞社に勤めていた方がおります。戦後、自分自身も朝日新聞も、新聞業界も、戦争の加担体制を作ってしまった、戦争に加担したという反省の下で、戦後、朝日新聞を退社され、ふるさと横手市に戻られて地域新聞や詞集「たいまつ」という本を出されました。その中に、「その国の未来はその国の子どもたちを見ればよくわかる。もっとよくわかるのは、その国の大人たちが子どもたちとどう接しているか、子どもたちをどう遇しているかだ。」という詞があります。まさに、我々は子どもの為と大上段から振りかぶって大綱を作っているのではなく、子どもたちにもわかるような大綱を別バージョンで作らなくてはならないと思いましたので、よろしくお願いします。
- ・では、皆様からご意見をいただきましたが、全体を通して何かありましたらお願いいたします。

③その他

【委員】

- ・2年ほど前に、総合教育会議の議題として教育大綱を取り上げてみてはという意見がありました。しかし、議題にはなりませんでした。これだけ変化が激しいのであれば、5年の最終年度ではなく、中間地点で大綱の確認ということを実施した方がいいと思います。次々といろんなことが変わってきていますし、予測できないことも起こっています。他にも変化だけではなく新たな事柄が生み出されています。人間が生み出すものもあれば自然環境が生み出すものもあります。かつて、SF小説や漫画、映画だったものが現実化してきていることがあります。AIが感情をもって戦闘に参加する映画がありましたが、それが現実になると恐ろしいことだと思います。
- ・それから、タブレットを長時間使用した結果、学力が低下したという報告がスウェーデンからありました。あの国はかなり進んでいます。そういった報告があるということにも目を向けておく必要があると思います。
- ・それと、評価の在り方ですが、毎年事務局の方で、教育委員会の事務の管理及び執行に係る点検評価を、教育大綱の中に全部入れて評価しています。今年の評価でも、ほとんど順調と評価されていましたが、何を求めることができていくかまでは到達していないと思います。
- ・それと、前回の会議で学校の指導指針の到達度というものが示されました。この到達度の調査も大綱の最終年度で実施するのではなくて、事務局と同じように1年ごとに各学校の他の評価と絡め合わせて実施していくことが必要になってくると思います。
- ・そのように進めていけば、変化の激しいことが次々と創り出されてくるという状況に対応できる能力と、新しい変化を創り出す能力を子どもたちに植え付けることができるので

はないかと感じています。

【教育総務課長】

- ・総合教育会議の議題として、中間で検証するためにも大綱を取り上げるべきということですが、確かにその通りだと思います。来年度以降の総合教育会議の議題の検討事項にさせていただきます。
- ・点検評価の在り方につきましては、昨年ですと事業のほぼ全部が順調ということでした。内容をもっと詳しく検証する必要があるのかなと考えておりますのでその辺についても、今後検討していきたいと思っています。

7 その他

なし

8 閉会